

■報告

日本技術士会北海道支部事業委員会
第9回 技術フォーラム

事業委員会が年1回開催している技術フォーラムの報告です。このフォーラムには私も参加聴講しました。一般課題の講演はモンゴル国「ウランバートルの都市再編」についてですが、大雪害により50万人の遊牧民がウランバートルに避難してきており、上下水道などのインフラ整備が必要になっているとのことでした。日本の技術士もモンゴル国で活躍できる場があるとお話していましたが、土地の売買概念を理解できない国民性などの文化の違いに対する対応が難しいのではと、考えていました。

特別講演の「徹底討論!! 「THE 技術士」～さらなる飛躍のために」ですが、実は私の参加した理由の1つに、この派手なタイトルにつられてしまったことがあります。技術士の知名度についての議論で、もちろん内容は有意義なものでした。その中で参加者全員に知名度UPが必要か?との挙手によるアンケートを実施した結果、会場では8割が必要との結果に対して、パネラーからは不要との意見が多数を占めたことが報告されています。私はこのアンケートで不要に挙手した一人です。理由としては、報告にもあるように知名度は、その行いに対して後から付いてくるものとの考えです。このような議論はさらに深めて、かつ得られた成果を実践することが大切と感じました。

(Y.K 血液 AB 型)

「稲むらの火」の今日的意義
安政南海地震における一人の日本人の記録

幕末から明治維新と大きく揺れ動く時代に一企業人からその視点とその活動域を地域から国家・世界へと広げた濱口梧陵という人物がいて、100年単

位で起こる津波対策として30代の若き時に私財を投げ打って広村堤防を構築した話である。非常に感激しました。日本にはこのような人が各地域にいて農民、漁民を家族の様に思い助け合ってきた歴史があったのですね……

また、もう一つ興味を引いたのは太平洋戦争時の防災教育として「稲むらの火」が学童に教えられ、そして戦後は取り上げられることはなかったとの事ですが、その修身の内容は防災意識と同じくらい大切な「地域の助け合い」であり、現在でも共有すべき教えてあり、今も学校で是非教えて欲しいと思いました。

顧みて、この度の大震災で、いたわりの心や人に迷惑をかけない等の公共心が、戦後教育の中でも日本人の心として継続されてきた事を確認できた事はうれしい事でした。海外メディアはこの度の東日本大震災における日本人の行動に対して、「東日本大震災の甚大な被害にもかかわらず、社会的秩序を保って互いに助け合う日本人の姿」を大きく称賛してくれました。具体的には「日本には最も困難な試練に立ち向かうことを可能にする『人間の連帯』が今も存在している」と称賛し「ほかの国ならこうした状況下で簡単に起こり得る混乱や暴力、略奪などの報道がいまだに一件もない」などの報道もありました。うれしい事でした。

「信じよう! 日本 ふるさと復興!」(著者 柴田さんの言葉を復唱しました)

(S.H)

食の討論会

～亜臨界肥料化技術で北海道を元気に～

大量に捨てられている家庭ごみや下水道汚泥などを肥料に再利用する技術に大変感銘を覚えました。私のいとこはコンポスト関係の団体に勤めていて地球に優しい仕事をしているなど感心しておりました

が、これはもっとすごい。二十気圧、二百度前後の亜臨界状態の飽和水蒸気でバイオマス廃棄物を数時間で加水分解し、アミノ酸などの肥料物質を作り出すというもの。コンポストでは、バイオマスの分解、発酵熟成に一年近くかかるのに対して、これは三時間程度でできてしまうというすぐれもの。おまけに、分子レベルまで分解するのでホタテのうろのカドミウムを除去する効果も高い。さらには、化学肥料と比べても植物の生育が早く、価格もコンポスト並みのこと。亜臨界肥料では原発が連想されるのでハイブリッド肥料などの名称変更を検討されているようですが、そんな自動車と間違えられそうな名前は止めて、いっそ「夢の肥料」と名づけてはどうでしょうか。

(いつものおせっかい男MS)

■私のプロジェクトX

「想定外の橋梁技術者人生」

筆者が苦学の末、北大を卒業され北海道開発局に入局、橋梁技術者として北海道内の数々の橋梁設計、施工を手がけられ功績は素晴らしいものがある。

何事にも当てはまるが、特に技術者にとって大切な事はリスクマネジメントであり、「リスク状況に応じて迅速に行動方針を示す事、リーダーが結果責任を負う事」の重要性を述べておられるが、私も同感である。

東日本大震災の復旧が遅々として進んでいない状況を報道で見るたびに、やりきれない思いが脳裏をかすめる。

ところで、私が技術士とはどういうものか意識し、取得したいと思ったきっかけは、氏が講師をされていた技術士試験の受験講習会を受講した時に遡る。

独特の節回しで、傾向と対策を熱心に指導しておられた姿を懐かしく思い出す。

また、白鳥大橋の予算獲得に関するエピソードはなかなか興味深い。技術者倫理に照らしてどうかという論議はもちろんあるが、北海道という本州(いわゆる内地)と違った風土の中で、厳しい予算獲得に奔走され、見事実現した筆者の努力に敬意を表したい。

現在、日本は景気低迷の中にあり、室蘭地方も一

頃のような活気が失われているのは残念である。

しかし、白鳥大橋が日本の土木技術の発展に大きく貢献した事実は、決して想定外ではないと思う。

(K.T)

活動レポート (オホーツク技術士会) 平成23年度定期総会及び技術研修会等の 開催報告

10年の節目を迎えたオホーツク総合振興局管内北見市に事務局を置き活動されているオホーツク技術士会の報告記事を読んで、2年ほど住んだ網走を懐かしく思い出した。

オホーツクの産業は、農業、林業、水産業及び農林水産資源を活用した地場産業を主とした商工業である。さらに、オホーツクはすばらしい観光地や観光施設が多くあり、たくさんの観光客が訪れる。このような様々な産業と観光地域において活躍されている技術士の皆様が、技術研修会、講習会及び技術士試験の対策勉強会などを、10年間続けておられ地方からの情報発信に貢献されていることに敬意を表したいと思います。

これからもオホーツクの発展のために、技術士会の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

(Y.S)

青年技術士交流委員会

平成23年度総会・新体制発足！！

50を過ぎると、青年技術士という響きに面はゆさも感じますが、青年協議会の活動には注目してきました。

今回は、新体制の発足と春期講演会の報告、及び今年度の講演会・セミナーの案内です。田中新体制には、女性技術士の姿も見えます。女性技術士は、全道に30名はいるようですから、もっと技術士会に参加して欲しいですね。

メーリングリストEPO登録数はH19年5月末約560名と記載されていますが、H22年度情報が欲しいですね。EPOは情報ツールとして活用させていただきます。

(YI)